



三中だより

中野区立第三中学校

第7号

平成29年11月13日発行

三生生によるお祝いパフォーマンスへ大きな拍手が贈られる！

校長 齊藤 久

11月4日（土）秋晴れの下、三中の体育館で開校70周年記念式典を開催いたしました。1番最初に見えたお客様は第1期生のご高齢の男性でした。「少し早く来たので校庭を拝見してもよろしいでしょうか？」と言われたので私は男性を校庭へと案内をしました。男性はしばらく校庭を眺めてから「あの頃から樹木が大きくなったように思います。」と感想を述べていました。

第1期生が卒業をしてから70年が過ぎました。

私は校長としてこの開校70周年を迎え、三中にかかわってくださった皆さんに対して心から喜んでいただける式典にするために何をすべきかを考えました。三中は70周年と同時に今年度で歴史に幕を下す特別な年でもあります。考え続けた結論は「現在の三中に学んでいる生徒がどんなに素晴らしい生徒かを見ていただこう。」でした。特に同窓の卒業生にとって、今の三生生を見ていただくことで過去を振り返っていただき、中学校時代の記憶を呼び戻し、タイムスリップしていただくことが、最高のプレゼントになると思いました。

生徒のお祝いパフォーマンスのその1は代表生徒挨拶です。2年生の4人が70周年を迎えた思いを込めて挨拶をしてくれました。最後の4人目は生徒会長として第十中学校の生徒会として力を合わせて中野東中学校を素晴らしい学校にしていきたいと決意を述べてくれました。その2は三中歌い隊の合唱です。歌い隊とは三中の校歌をしっかりと歌い生徒のお手本になりたいという有志の集まりです。1年生から3年生まで約60名の生徒が金曜日の昼休みに音楽室に集まり練習をしています。この周年記念式典に向けて『虹』という合唱曲と『ふるさと』を披露してくれました。『虹』では男女それぞれ1名がソロも披露してくれました。その3は英語部の発表です。英語部は帰国生徒を中心に活動しています。先月来日したウェリントンの留学生との交流でも大活躍してくれました。式典では英語で三中の紹介をしてくれました。また、英語で三中の良いところを先生や生徒にインタビューする企画もあり大変に盛り上がりました。私も英語部の3年生に英語でインタビューを受けた時がこの日1番緊張をした瞬間でした。その4は応援団リーダーによるダンスバトルです。春の運動会で三中は応援パフォーマンスでダンスをしています。その時の3年生応援リーダーがキレキレのダンスを披露してくれました。その5は全校合唱です。合唱曲の『希望の光の中』は音楽科の寺林先生が大学生の頃にこの合唱曲の制作発表にかかわったと伺いました。寺林先生にとって貴重なそして大切な1曲だと思います。それを全校生徒が心こめて合唱しました。この式典で三生生が披露したお祝いパフォーマンスへ大きな拍手が贈られました。最後は70年間歌い続けてきた校歌で式典を締めくくりました。

区長の田中大輔様をはじめ、区議会議員のいよいよ良輔様、教育委員の伊藤亜矢子様におかれましてはご多用の中ご祝辞をくださり感謝申し上げます。また、PTA会長の小野田滋様、そして70周年記念行事委員長の荻野嘉彦様にも感謝を申し上げます。

今後の主な予定

1 1月13日（月） 補充教室 ～14日（火）
1 1月15日（水） 定期考査（音・社・理）
1 1月16日（木） 定期考査（美・技家・国）
1 1月17日（金） 定期考査（英・保・数）

1 1月20日（月） 職場体験～22日
1 1月30日（水） オリンピック講話
1 2月 4日（月） 三者面談開始～8日
1 2月 9日（土） 学校公開

開校70周年記念 合唱祭

音楽科 寺林 由紀恵

10月26日、三中最後の合唱祭が、なかのZEROホールで行われました。『完全燃唱～歴史を飾る最後の「炎」になろう～』というスローガンにふさわしく、美しく熱い合唱を響かせることができました。最高の運動会に続き、最高の合唱祭にしようと、実行委員や指揮者、伴奏者、その他多くの係生徒が、長い時間をかけ、真剣な気持ちを注ぎ、頑張ってきました。そしてクラスのメンバーもまた、一生懸命に、心優しく、協力をしてきました。

当日の演奏はどのクラスも素晴らしく、1年生は元気いっぱい、パワーあふれる合唱を聴かせてくれました。2年生は一つ上の大人の声で、落ち着いた美しい歌声を聴かせてくれました。3年生は圧倒的な力強さに加え、響きや表現、全てにおいて3年間の大きな成長を感じさせる合唱で、中学生の可能性を示してくれた、最高の演奏でした。

合唱祭の取り組みが始まった頃、どんな花が咲くのかわからないつぼみの集団であった合唱が、自信を持ってくると、一人また一人と花開いていきました。友だちの力に導かれて、本番数日前にはあつという間に加速し、最後の授業で、ほぼ満開となりました。全クラスの、あのキラキラした笑顔の歌声は忘れることができません。そして本番、最高の合唱をしようという気持ちが一つになり、

見事満開となりました。70周年であり、三中最後という大切な合唱祭を心一つに終えられたこと、とても嬉しく思います。子どもたちを信じて支えてくださった全ての皆様、本当にありがとうございました。新しい学校にも、この素晴らしい伝統が続いていくようお願いを込めて。



1年A組

1学年

課題曲「夢の世界を」

A組「怪獣のバラード」

B組「この星に生まれて」

C組「フェニックス」



1年B組



1年C組

2学年

課題曲「時の旅人」

A組「With You Smile」

B組「COSMOS」



2年A組



2年B組

3 学年

課題曲「友よ北の空へ」

A組「道標」

B組「決意」



文化的行事発表 ・ 科学部 ・ 英語部 ・ 吹奏楽部



有志合唱「歌い隊」

「虹」

「海・風・光」

「ふるさと」

(+教員合唱)



全校合唱

「希望の光の中」

マナー講座

2 学年 高橋 美保子

職場体験事前学習の一つとして11月6日(月)6校時マナー講座が開かれました。講師の江上いずみさんは客室乗務員として皇室の専用機にも搭乗されたことのある方です。

視覚からのマナーとして表情、態度、身だしなみについて。また、聴覚からのマナーとして言葉の使い方についてたくさんの具体的な説明がありました。「了解」や「お疲れ様」は年上の方に使用しない。「あご」で指し示すことは失礼である。など再確認したことがたくさんありました。

江上さんの資料には三中の校舎や統合新校の教育目標が取り入れられており、講演をより身近なものとして、生徒一人ひとりに受け取ってもらいたいという江上さんの「おもてなし」の心を感じました。

20日(月)より2年生は3日間の職場体験に出かけます。事業所によって求められるマナーは少しずつ違うかもしれませんが、マナーは、「人に嫌な思いをさせない」という思いやりの気持ちから生まれた暗黙の礼儀作法といわれます。一生懸命考え、その場に一番適した振る舞いで、さわやかな印象を残していきたいと思います。「OMOTENAS I」という言葉は世界中で理解されるようになりました。2020年のオリンピック・パラリンピックでは「尽くし上手、尽くされ上手な日本人ボランティア」として活躍してほしいと思います。

講演の最後、フライトの終わりと同じように、一人ひとり江上さんとあいさつをしてお別れしました。「またお目にかかりたい」と感じられる最後でした。

2年生 ふれあい教室

養護教諭 中角 友紀

11月11日(土)に、地域のみなさん、城山ふれあいの家さくら館、保護者のご協力のもと、あかちゃんとのふれあい教室を開催しました。生徒たちには事前学習として、自分の出生時の身長・体重や幼い頃のエピソード、名前の由来を保護者に聞き取ってきてもらいました。クラスメートで共有したり、「あなたに」という資料をもとに親の気持ちを考えたり、改めて親の愛情や命の尊さなどにふれて当日に臨みました。



今年度は11組の親子にご参加いただき、最初は緊張していた生徒たちも、あかちゃんの可愛らしい姿や様子に、だんだんと積極的にふれあったり、自分の親にはなかなか聞けないこともご両親に質問したりしていました。ご両親がエコーや成長の写真を見せながら、出産のことや子育てのことなど様々なエピソードをお話ししてくださり、生徒たちは興味深く聞いていました。様々なエピソードを聞く中で、生徒自身も幼かった頃を振り返り、今まで大切に育ててもらった両親への感謝の気持ちに気づけたようです。

普段小さい子と接している生徒もそうでない生徒も、実際にあかちゃんを抱いてみると「動くから難しい」、「緊張する」などと恐る恐る抱っこしている姿もありましたが、普段とはまた違った柔らかい表情であかちゃんとふれあっている姿は、とても微笑ましく、印象的でした。

1時間という短い時間はあっという間に過ぎ、様々な家族とふれあう体験を通じて、小さな子をおしむ気持ち、親の愛情や責任、命の尊さといったことを改めて感じたり、考えたりできたとても貴重な機会となりました。ご家庭でも、ふれあい教室について話題にしていただき、小さい頃の様子を話してもらえればと思います。



～ふれあい教室を通しての生徒の感想を抜粋していくつか紹介します～

- あかちゃんのお母さま、お父さまの話聞いて、生まれるまでの努力や生まれた後の苦勞を知り、自分の親も今まで育てるために、いろいろな苦勞を積み重ねてきたのだと実感しました。実際にあかちゃんを抱いてみて、3人のあかちゃんそれぞれ身長、体重も違って、本当に人それぞれなんだと思いました。また、普段はできない貴重な体験もできて、よかったと思ったし、親への感謝の気持ちも忘れてはいけないのだと思いました。
- 僕は自分の生まれてきたときのことなんか覚えていないけれど、両親は一生忘れないと思います。また、あかちゃんの名前も深い意味が込められていて、あかちゃんのことを大切にしているんだなと思いました。自分も小さいときから大切に育てられたと思うと、感謝しかありません。また、自分が結婚し、子どもが産まれたら、大切に育ててあげたいです。
- 抱っこしたり、膝に座ったりしてもらって、小さいけれど命の重みを感じた。自分が大切にされて、育てられ今があるんだなと改めて感じた。出産前にマニュアル本を買っている方もいて、不安なんだなと思った。「泣くのがこの子の言葉だから」と言っている方がいて、泣いている理由を見つけてお世話をしてあげるのはとても大変だなと思った。
- 同じ身長なのに、表情や体重、あたたかさが全然違って驚いた。手足がすごく小さくて、小指を出すと小さな手で握ってくれた。思ったより握力もあってすごいなと感じた。爪はやわらかいから切るのが大変だし、引っかかれるというエピソードを教えてくださいました。心に響いたのは「あかちゃんかわいいけど、決して育てるのは楽ではない」という言葉です。まさに楽あれば苦ありです。そういったことを肌で感じられるいい体験ができました。